

ボランティア

第70号

令和3年 1月

情報佐賀



◆◆ 7月豪雨災害でのボランティア活動について ◆◆

7月7日、解析雨量で約110ミリの記録的な大雨が降った鹿島市。普段は観光客でにぎわう祐徳稲荷神社の門前商店街に、近くの川からあふれた濁流が流れ込みました。一夜明けた門前商店街では、店主らが片付けに追われる中、鹿島市社会福祉協議会と連携して活動している地域住民の有志でつくる「かしま防災サポーターズクラブ」のメンバーが先行して、浸水被害に見舞われた現場に入り家族の一員のように奮闘され、その週末から、鹿島市社会福祉協議会が地元住民をはじめ市民活動団体などと連携しながら災害ボランティア活動を実施しました。

特に、駆け付けたボランティアの活動は、突然の災害を経験され茫然自失の中にあつた被災された方のお宅に流入した土砂や泥水を取り除くとともに、生活復興への第一歩を踏み出す元気と勇気をもたらしました。

新型コロナウイルスの感染予防のため、ボランティアの方を佐賀県内の人に限って募集したので、人が集まるか心配しましたが、地元の議員や区長、民生委員、青年会議所、ライオンズクラブ、ロータリクラブ、また、県内からのボランティアなどが継続的に支援に入れ、7月31日までの活動期間内にのべ448人（うち市外118人）と多くの方に参加いただきました。

鹿島市社会福祉協議会では、今後おこりうる大規模災害に備えて、必要な取組みを実施するとともに、「顔の見える地域づくり」が災害時にも強い地域を生むことを、今回の災害対応で目の当たりにしました。

この経験から、地域での災害対応は、災害時に限ったものではなく、日常の「福祉のまちづくり」の延長線上にあるものだと改めて感じ、引き続き、地域での助け合い、支えあいを広めていく取組みを進めて参りたいと思います。

最後になりますが、今回、災害ボランティア活動にあたり、ご支援ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。